

河口堰の作られた目的は何だろう？

遠賀川河口堰は河口から2kmの地点に、約5年の歳月をかけて昭和55年に完成した可動堰です。堰の長さ517m(自動車 約130台分)、貯水量1,114万 m^3 (福岡ドーム 約6杯分)です。

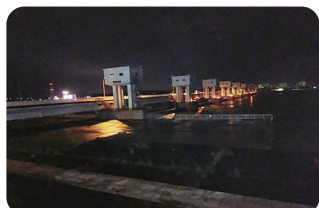


遠賀川の昭和28年6月の大洪水は、周辺に甚大な被害をもたらしました。昭和42年、43年と続いた異常渇水により川の水が取水出来ず水不足になりました。

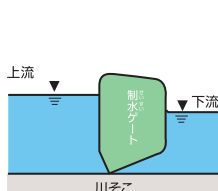
このため、**洪水**を安全に流すため、**生活用水**を確保するため、**塩害**を防ぐため、**3つの目的**から、遠賀川河口堰が建設されました。

治水：洪水を安全に流します。

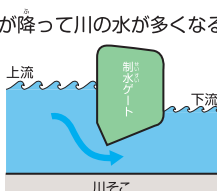
■大雨が降ったら河口堰のゲートをあけて洪水を海に流します。



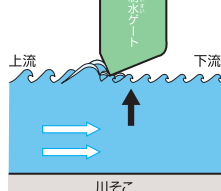
ゲートが開いていると回転灯が回っています。



普段はゲートを閉めて水を貯めています。



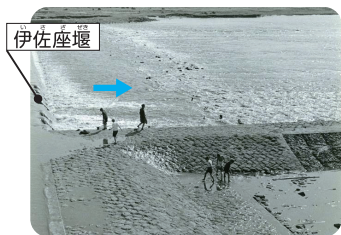
川の水の量に合わせてゲートを開けて洪水を流します。



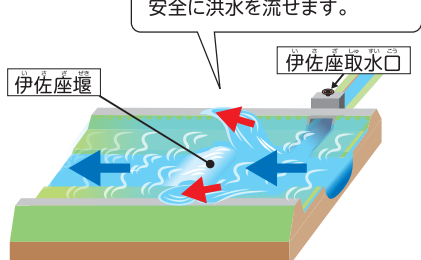
大きな洪水の時は全開し洪水を流します。

■固定堰(伊佐座堰)を撤去して洪水を流れやすくしました。

河口堰ができる前は、河口堰から6km上流に、取水のための伊佐座堰という固定堰(動かない堰)がありました。



伊佐座堰(昭和50年撮影)



洪水の時、伊佐座堰で川の水があふれる恐れがありました。今は伊佐座堰を撤去したので、安全に洪水を流せます。

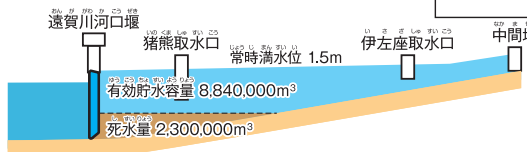
利水：生活用水を確保します。

河口堰でためた水は、右図の2市4町の水道用水として使われています。北九州市工業用水にもなっています。



河口堰に貯めた水は、1世帯4人の家族で使用したとすると、1,148万世帯分にもなります。

最大限に貯水できる容量	総貯水容量 11,140,000 m^3
水道・工業用水	有効貯水容量 8,840,000 m^3



遠賀川河口堰から中間堰までの約9.3kmの範囲に水を貯めています。



塩害防止：貯水池に海の水が入るのを防ぎます。

貯水池に海水が入ると、水道、農業、工業などの用水に使えなくなります。遠賀川河口堰では、水門を閉めて海水が入らないようにしています。



海の水は一日に満ちたり、引いたりします。



Attention

遠賀川の水を大切に

川の上流で、水を取ります。
お風呂や茶碗を洗い使うと汚れた水を流します。
汚れた水は、川に戻ってきます。
その川の水を誰かがまた使います。
汚れた水は浄水場で汚れを取り、皆さんの家まで届きます。
水の汚れがひどいと消毒したりにおいをとったりして、やっと飲める水になります。
ジュースの残りや食べかすなどを流さないことなど、ちょっとしたことが川の水を汚さないことにつながります。

